東京ジャーミイ金曜日のホトバ

2009 年 4 月 24 日

クルアーン -II-

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマドは２３年もの間、クルアーンを自らに啓示されたとおりに章句として人々に伝え、そしてさまざまなものに書き留められていた章句は、のちに第１代カリフ、アブー・バクルの時代に一冊の本としてまとめられました。そして第３代カリフ、オスマーンの時代にその本は書き写され、イスラーム諸地域のさまざまな都市に送られました。預言者ムハンマドの時代から現在に至るまで記述と暗誦によって伝えられてきたクルアーンは、諸啓典のうち神から下されたままの形を保持している唯一の啓典です。

アッラーの言葉であるクルアーンは、人間がつくりだせるものではないという特徴の他、イスラームの教えの信条や崇拝行為（イバーダート）、道徳や法に関する多くの決まりごとが示されているという明確な特徴を持っています。

そこではアッラーの唯一性と共に来世での生、天国や地獄についても説明されています。さらにクルアーンは人々に教訓を与え注意を促すため、以前の預言者達や人々について言及し、過去の歴史的・社会的出来事を含む挿話を伝えています。クルアーンは人々に公正に振舞い、アッラーを畏れ罪から遠ざかることを命じ、人々への教訓と導きを与えています。

クルアーンはまず人々を自らの創造とこの世界における均衡を深く考えるよう導きます。人はこの導きによって、万物が単純な次元から形成されているものではなく、人の理解を超越した形而上学的次元の存在することを知るのです。

クルアーンにおいて生とは、私達が生きている現世だけのものではなく、死によって終わりを迎えることなく来世においても永続するものと説かれています。そして来世における生を獲得できるか否かは、人の現世における行いに左右されます。アッラーが望まれ信者の義務とされている崇拝行為（イバーダート）や宗教上の行為を実践すること、そしてアッラーが望まれず神によって禁止されていること（ハラーム）を避けることが、クルアーンの中において幾度となく明記されているのはこのためです。こうした行いによって、人やその集団は現世と来世の幸福を得ることができるのです。要するにクルアーンは、唯一の神アッラーを信じることにより、公正で道徳的な行動をとることのできる人間と社会の形成を目指しているのです。

親愛なるムスリムの皆様。イスラームの教えを理解し正しく実践することは、イスラームの根源であるクルアーンを、その意味を理解しつつ読むことによってのみ可能となります。アッラーはクルアーンを理解しそれを実践するように容易なものとしたと仰せられ、その言葉を熟考し理解することを求めておられるのです。という章句によって、クルアーンについて考えない人々を非難しています。クルアーンを理解するための唯一の手段は、クルアーンの最初の命令であり、「クルアーン」と言う言葉の意味でもある「読む」という行為を実践することによって可能となります。信仰を持つ私たちムスリムの人生の最大の目的はクルアーンを理解し、クルアーンに従って生きることであるべきです。イマーム・ガッザーリはこのことについて「クルアーンをそれにふさわしい形で読むためには、舌と知性、そして心が共に働かなければならない。舌は喉から音を出す文字に注意しつつゆっくり丁寧に読む。知性はその意味を考える。心はそれが命じ、あるいは禁じていることから影響を受け、自らを正す。つまり、舌が読み、知性が訳し、心がそれを学ぶのである。この三つが同時に存在しなければクルアーンは真の意味で読まれたことにはならない」と語っています。預言者ムハンマド（アッラーの祝福と平安がありますように）は「あなた方のうち最も尊いのは、クルアーンを学び、教える人である」とおっしゃっておられるのです。